

事業所名 : グループホーム やまばと

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900173		
法人名	一関市病院事業		
事業所名	グループホーム やまばと		
所在地	〒029-3405 岩手県一関市藤沢町藤沢字町裏56番地		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和6年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームやまばとは、藤沢病院が中心となり医療と福祉が一体となった一関市病院事業に所属している。隣接して藤沢病院、特別養護老人ホーム、デイサービス、消防署、藤沢支所等の関係機関が集まっている藤沢町の中心地域にある。隣接している藤沢病院がかかりつけ医でもあるため多様な相談、治療がいつでも受けることができる。また、訪問看護が週2回来所され、利用者の健康管理を行っている。看取り対応も行っており、訪問診療の協力をもらい、随時相談出来る体制を整えている。利用者の入所年数が長いのも特徴の一つでもある。入所年数が長いと介護度も重度化して来るが、その時は入浴機械、福祉用具等を併設している特別養護老人ホームからの協力をもらうことができる。やまばとの利用者がボランティアとしてデイサービスから仕事をもらい行っている。それが生きがいに繋がっている。また、コロナ感染予防対策のため最近では実施出来てないが、特別養護老人ホームやデイサービスとの交流もあり、行事等にも参加し交流を深めている。少しずつ以前の様に交流を始めている。交流事業の一つとして、昨年度より『介護予防マルシェ』を開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、一関市藤沢町の中心部にあり、隣接して国保藤沢病院、特養やデイサービス施設、消防署や市藤沢支所などの行政機関も集まる地に立地している。国保藤沢病院を中心とする医療と福祉が一体となった「一関病院事業」のもと、訪問診療と週2回の訪問看護の支援を受け、隣接の特養とも連携しながら、利用者へ寄り添ったきめ細かなサービスが提供されている。さらに看取りも行われ、利用者及びその家族への安心感に繋がっている。職員は、毎月開催の会議で当面の業務の確認や見直し、研修等への参加、利用者対応の検討など、介護の全般にわたる情報共有が行われている。また、明るく楽しく安心して安全に過ごせる生活の場を利用者に提供することを目標に、担当職員が寄り添い、安心、丁寧なケアにつなげている。地域との交流事業の一つとしての介護予防マルシェ(地域の方が作ったものの販売)の10月再開など、コロナ禍前の交流等に徐々に近づけよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	特別養護老人ホームと共通の理念を基にグループホームの役割について事業所の理念を掲げ、年度初め、中間、年度終わりと職員全員で共通理解を図っている。また、常に意識をして行動出来るように見える所に掲示し実践に繋げている。	「愛・活・和」を柱とする理念を年4回の職員会議の場で確認・共有するほか、職員は玄関や居間等に掲示する理念に目を通して意識を高めている。毎年度、介護目標を設定し毎月開催のグループホーム会議で取組状況を確認し合うなどしながら、日々の実践につなげている。	理念の柱である愛・活・和の一つ一つについて、期間を設定して力をいれて取り組むことにより、理念に対する職員の更なる理解と共有が深まることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は地域での諸行事には参加出来ていないが、特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホームで「介護予防マルシェ」を開催し地域の方々との交流する場所を作っている。また地域の方々野菜等を持って来所されたりとそのような所から交流をしている。買い物等地元の店を利用するようにしており、些細な事からでも繋がりを大切にしている。	コロナ禍のため地域交流の機会が殆どなくなったが、近所の方が野菜を届けてくれたりする間接的交流は続いている。利用者は、隣接の畑を見たり、花壇の花の手入れを楽しみながら過ごしており、この10月に「介護予防マルシェ」を開催したところ、地域の方々から暖かい声をたくさんいただいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には委員として近隣の方々の参加があり、実際に利用者様と交流することで認知症という症状や当施設での実践している対応方法を伝える機会が出来ている。また、介護助手養成講座で、やまばと職員が認知症の講師を務めたり、施設紹介の中で、認知症の方との関わりについて発表をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市の関係者や自治会、近隣の方、民生委員の方が委員になっている。会議では、利用者様の状況や月ごとの行事等の報告をしている。その中で、委員の方々には質問や意見を頂き、話し合った事を職員と共有しサービスに繋げている。	コロナ禍により4月、6月は書面会議であったが、7月以降は対面での会議ができています。利用者家族や市職員、町社会福祉協議会、民生委員、地区代表者、それに市運営の特養所長を委員とし、報告や意見交換等を行っている。委員からの提案等については、可能な限り具体化できるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の保険福祉課の職員が開催している支援会議が2か月に1回開催されており、そこで当事業所のケアサービスの取り組みを伝える事が出来ており情報交換も行っている。	市藤沢支所主催で年4回開催される支援会議に参加している。他の事業所の取り組み事例の紹介や虐待関係の研修を日頃の業務に役立てている。また、出席グループホームの事例紹介をきっかけとしてグループホーム相互の交流につながっている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やまばと

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体である光栄荘の身体拘束適正化検討委員会に参加し身体拘束の取り組みを行っている。委員会からの情報等職員に回覧、掲示し情報共有を行っている。玄関の施錠については夜間のみ行っており日中は解放している。	「適正化委員会」は母体の特養と一緒に3ヵ月ごとに開催されている。職員2名が参加し、その都度伝達研修を行って職員に周知している。特にスピーチロックに関しては、事業所として重点的に対応している。転倒防止のためベッドセンサーを数名に利用し、また、玄関は日中にはセンサーを使用し、夜間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体である光栄荘の虐待防止委員会に参加し、委員会からの情報等職員に回覧、掲示し情報共有を行っている。また、委員会主催の研修会にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援会議等で学ぶ機会がある。そこでの情報等をグループホーム会議で勉強会として学ぶ機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より入所時、退所時また改定時の都度、ご家族様に重要事項説明書にて説明を行い同意を頂いている。また、不安や疑問点を伺い必要に応じて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等が緩和されご家族様とも会う機会が多くなったので、その都度意見や要望等伺うことが出来ている。ご家族には管理者や介護支援専門員を中心に、利用者様毎に担当があり、その担当職員が電話で生活の状況を伝えながら意見、要望等を聞くようにしている。利用者には担当中に日常生活の中で意向等を伺い、会議等で話し合いサービスに繋げている。	担当を利用者ごとに定め、必要の都度、家族と連絡を取っている。玄関スペースでの家族との面会の際に、意見や要望等を伺っているほか、面会に来られない家族へは適宜電話で報告や連絡を行っている。利用者家族には順番で運営推進会議の委員をお願いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のケア会議、月1回のグループホーム会議の中で、業務の見直しやカンファレンスを行い職員の意見や提案を聞くことが出来ている。また、ノートを活用し会議等で話し合えない内容等も記入してもらう事で把握している。	困っていることや改善して欲しいこと等は、ケア会議やグループホーム会議の際に出し合っている。年1回職員面談を行い、待遇に関することや人手不足解消など、職員からの意見の具体化に向け上層部に協議している。なお、「ノート」を活用し、直接言えない事案等についても記録に残し、共有するようにしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の生活を優先した上で、勤務時間内に業務が終了出来る様に常に業務改善等の話し合いを重ね、より良く働ける職場環境をつくる様努めている。各自向上心を持って働ける様に得意分野を生かすように役割分担を行い、そこからやりがいを有るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一関病院事業や事業所内で開催される研修会等や事業所内で開催される勉強会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	藤沢地区の福祉事業所が参加する支援会議にも参加し、情報交換も出来て勉強会の場にもなっている。町内には2つのグループホームがあり、現在は交流等難しいので管理者同士の情報交換を支援会議の時に行っており繋がりを持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、担当していた介護支援専門員、入所していた施設の介護支援専門員より情報収集を行い把握に努める。また、サービス導入時は会話を多く持つ等ご本人に寄り添う体制を作り要望等を伺いながら良好な関係をつくるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前から居宅の担当している介護支援専門員等を通してご家族様の不安なこと、要望等を伺い、サービス開始時に解決出来るものは話をして、少しでも安心してサービスを利用出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人やご家族より悩み等を聞き出せるように関わり、現在何が必要かを判断し気持ちに応じた対応を行う様にしている。居宅の介護支援専門員や行政等と連携を図り職種間の連携を図るようにしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者の視点に立ち、その人らしく過ごして頂けるように、一人一人を尊重し認め合い、共に生活をしていることを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向を尊重しながら、管理者、介護支援専門員、居室担当を中心にご家族様との情報共有を行い、共に支えられるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の散髪店を今でも利用していたり、地元へ車中ドライブを行いその場所を忘れないように対応している。	以前に利用していた理髪店に訪問いただき、馴染みの関係の継続に努めている。また、希望の都度自宅、昔見たり行ったりしたダムや観光牧場などへドライブに行ったり、近くのお寺に行ったりすることが、利用者にとっては良い気分転換となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの情報を把握し、相性等を見ながら孤立しないように、また好きな事が出来る様な環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した際には面会に伺い状態把握に努めている。退院の見込みがなくなり退所になった場合でも面会に伺ったりご家族への声掛けを行うことにしている。また、事業所の特養に長期入所になった場合には職員への情報提供を行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族のから昔のことを聞いたり、希望や意向を伺いながら、出来る事や好きな事を出るだけ行えるように支援している。また、自分の気持ちを話したりできない利用者に関しては、普段の会話や行動、表情等から意向を汲み取るよう努めている。	会話が出来る利用者は8名、1名が難聴気味のため筆談としている。食べたいものやお手伝いのことを中心に意向を伺っている。特に、リラックスできる入浴の時間には、普段話題にできない事や思いなどを聴くことができている。常に利用者の話の内容や動作に注意を払い、様々な意向等を把握しながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の契約の時や面会時にご家族より生活歴やこれまでの暮らし方等聞き取りをしている。また、入所前の担当ケアマネより情報を収集して把握に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設の基本的な日課に添いつつ、一人ひとりの生活スタイルに合わせ、その日の心身状態を把握した上で自立支援等に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとの担当職員が月1回のモニタリングを行っている。週1回、月1回の会議で利用者全員の確認事項を話し合っている。ご家族にはモニタリング実施時に電話にて意向を伺い本人とご家族の意向をすり合わせを行っている。	担当の職員が、それぞれの利用者ごとに月1回のモニタリングを行い、職員間で情報共有しながら6か月毎に計画の見直しについて検討し、最終的にケアマネが取りまとめている。見直しの際には、家族等の意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を時間ごとに記録をしている。職員間で情報を共有しながらグループホーム会議やカンファレンス等で評価をし実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週案計画に立案出来ていない場合でも、利用者のその時々にも生まれたニーズや思いを大切にできるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全に生活ができる様に、暮らしに必要な地域資源を把握出来るように情報収集に努め支援に繋げられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医が協力病院であり、本人、ご家族のご希望で協力医を受診している。看取り対応については協力医との連携を図り対応している。通院の付き添いは職員が対応しており、受診時の報告をその都度電話でご家族に連絡している。場合によってはご家族の対応する時もあるし、同席して頂くこともある。	かかりつけ医は、8名が国保藤沢病院であり、1名が他の医療機関である。受診時は職員が同行し、受診結果を家族に報告している。皮膚科・眼科は藤沢病院以外での受診となり、家族が同行している。事業所内では、藤沢病院からの訪問診療と週2回の訪問看護で利用者の健康管理を行っている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化は日誌に記録しており、訪問看護師へ報告や相談をして、早期発見、早期対応に勤めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院看護師へ施設での生活状況等を報告し、本人、ご家族が安心して治療が受けられるようにしている。また、入院中は面会し様子を伺い、退院許可が出た場合は早期に対応しご家族の協力も頂きながら病院との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重度化した場合や終末期の在り方について説明を行い、ご家族の意向を確認している。事業所で出来ること出来ないことを説明し、話し合いを行いながら、意向によっては特養の長期申請を勧めている。本人の状態やご家族の心情の変化を察しながら、情報共有し本人にとってより良い終末期を迎えられるようチームで取り組んでいる。	入居時の契約の際に重度化や終末期に係る説明を行い、特に看取りについては「看取りに関する指針」により家族へ説明し了承を得ている。今年度は、2名の利用者を看取りしている。緊急時には、職員は病院へ連絡を入れるなど「看取り介護マニュアル」に基づいて対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の光栄荘の医務研修会の資料を抜粋し、急変時の対応や応急手当等をグループホーム会議で確認する。対応についてのマニュアルの作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害時訓練は実施している。運営推進会議等で災害時の対応について話を行い地域の協力も依頼している。地域への説明会も予定しており協力体制を築いていく。	避難訓練を年2回実施し、うち1回は11月に予定する夜間の訓練である。地域の方への協力依頼は運営推進会議を通じて行っており、次は事業所主催で地域への説明会を開催し協力の要請を行うことを検討している。備蓄は水・食糧を1週間分、発電機やAEDは母体施設のものを活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の1日の基本的な流れはあるが、利用者個々の意向を伺ったり、状態を見ながら食事時間や内容、入浴、活動等その日の生活について臨機応変に対応している。	名前に「さん」を付けて声掛けするなど、言葉遣いには十分注意を払っている。したいことやしたくないこと、嫌いなことなどは、利用者一人一人から聴き取り、無理強いしないよう心がけている。また利用者の経験等を尊重して「お正月の飾りつけ」の仕方を教えていただくことも大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に自分で決定し返事が出来るような声掛けを行い、決定出来ないときは、選択出来るような話をするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、なるべく利用者様の状態やペースに合わせている。ご自分から何かしたいことを話されたときは、出来る限り希望に添うようにしている。また、添えない時には、今日は出来ないことを説明し、次いつなら出来るかを提案し希望をつぶさないようには心がけて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、当日着る衣類等利用者と話をしたり、行事等参加時にも利用者の意思をなるべく尊重しながらその人らしい服装を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいか伺いながら、旬の食材を取り入れながら1週間の献立を立てて提供している。畑で収穫した野菜の下ごしらえ、盛り付けや配膳、テーブル拭き、後片付け等出来ることを役割分担をしながら、職員と一緒にやっている。	職員が献立を作成し、特養の管理栄養士から月1回指導を受けている。昼食は配食サービスを利用し、誕生日には誕生日食として食べたいものを本人から伺い提供している。利用者は、昔料理のハットなどの要望もあり、その都度対応している。利用者は食前食後のテーブル拭きや食器洗い、食器拭きの手伝いだけでなく、調理中の味見も手伝いながら食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量はチェックし不足の時は利用者に合わせた対応で補うようにしている。栄養バランス等は母体の光栄荘の栄養士に相談しアドバイスを頂いて対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態を確認し声かけ等行いながら口腔ケアを実施している。また3か月に1回、母体の光栄荘の口腔ケア委員会に参加し歯科衛生士のアドバイスを頂きながら対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、昼夜問わず声かけ誘導等を行い失禁を減らしている。	日中は基本的に全員がトイレを利用し、夜間は3名がポータブルトイレを使用している。排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、タイムリーに声掛けして誘導しており、現在布パンツ利用が3名、紙パンツ利用が6名である。時々止む無く失禁してしまった方があっても、周囲に気づかれぬようさりげなく接している。なお、入所後に紙パンツから布パンツ利用になった方が1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは食事内容や水分量等でなるべく自然排便を促すように努めている。難しいときは訪問看護師に相談しアドバイスを頂くこともある。運動については、毎日ラジオ体操や食前体操で身体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本として週2回午前中で入浴を行っている。季節ごとに菖蒲湯やゆず湯等も行い利用者楽しんで頂いている。また、足に疾患のある方や、入浴がない時は足浴を実施している。	週2回午前中での入浴とし、異性介助を嫌がる利用者はおらず、どなたも嫌がらずに入浴できている。その日の気分で明日にしたいとの希望にも応えている。入浴時は、世間話や普段できない話なども、リラックスして話している。また、足浴も行っており、利用者にはとても喜んでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は一度臥床して頂いたり、休みたいときは活動時間でも休んで頂いたり個々のサイクルで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細を把握出来るように薬の袋に説明書を入れている。内服薬の変更があった場合は、職員全員が把握出来る場所に掲示し誤薬防止に努めている。また、内服薬について疑問が生じた場合等はお世話になっている薬局に相談して対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴を知り、その方の好きな事ややりがいのある仕事、役割、活動を把握して提供しており、ご自分の役割を把握し生きがいに繋げている利用者様もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は遠出は出来ないが、希望があれば可能な限り外出(車中ドライブ)が出来よう支援している。また、外に出たいとの希望があれば、いつでも散歩等出来る様に体制を取っている。自宅に帰りたいとの希望があれば、ご家族様のご協力を頂きながら外出の対応もしている。	玄関前で日光浴や外気浴をしながらお茶を飲んだり、近隣の家庭菜園への散歩を楽しんでいるほか、遠出のドライブで千厩での花見や花泉の牡丹園へ出向いたりして、観光を楽しむ機会も提供している。生まれ育った実家等を見たいという要望にも対応するなど、外出の機会を可能な限り提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金の管理は職員が行っており、本人と確認しながら計画的に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があればご家族等電話でやり取り出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には花を飾ったり装飾を行い季節を感じてもらえるよう努めている。共同の空間は常に清掃、整理整頓を心掛け居心地よく生活出来るよう配慮している。	高い天窓から自然光が差し込み、エアコンで室温が調整されたホールには、食事兼用のテーブルやソファ、テレビが置かれ、ゆったり過ごしやすい空間となっている。壁には利用者の作品が掲げられ季節感も与えてくれる。利用者は思い思いの場所で、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で会話を楽しんだり活動が出来るように場所をセッティングして楽しく時間を過ごせるよう支援している。一人になりたい時は、居室や居心地の良い場所を用意出来るようにしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	入所前や入所時に本人やご家族に居室を見て 頂き、話をしながら居心地よい居室になるように 努めている。また、好きな花やご家族の写真を 飾ったり、お気に入りの椅子やテーブルを置いた りと工夫している。	ベッドや洗面台、クローゼットが備えられエアコン で空調がなされている。椅子やテーブル、壁には カレンダーや家族の写真、誕生会の写真などが 飾られているほか、テレビやCDプレーヤー、ラジ オなども自由に持ち込み、思い思いの過ごしや すい空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	居室内では自分でダンス等開けたり、ポータブル を使用出来るように手すりを設置し安全に生活 が送れるように対応している。また、ホール内は 自分の席がわかるように工夫したり、トイレの位 置もわかるようにしている。ホール内は、職員が 一目で確認出来る様な広さなので、常に個々の 動きを把握出来るように、また、すぐに職員に声 をかけられるような職員配置をしている。		